

いしかわ

Vol. **26**

2007 Spring

NPO ニュース

特集 いしかわのNPOマップ (金沢エリア)

いしかわのNPO

城址 小丸山公園活かし隊

NPO法人 エコ未来塾

NPO法人 清水育英会

大呑地区グリーンツーリズム推進協議会

つながる、
ひろがる、
ふれあう。

[ちょっと気になる、いしかわのNPO]
NPO法人 ^{こころざし}志ネット・石川

これで納得!NPOの「人と組織」
指定管理者制度について考えてみよう!

県からのお知らせ

NPO・ボランティア情報

助成金ニュース

リーダーズVOICE

NPO法人 ヘリテージ・オブ・レイル北陸 理事長
岩谷 淳平さん



石川県

URL <http://www.ishikawa-npo.jp>

城址 小丸山公園活かし隊

〒926-0048 石川県七尾市松物町57-10 情報処るべ蔵内
TEL&FAX 0767-52-1231
URL <http://blog.goo.ne.jp/nanao-komaruyama/>
E-mail why-not.jjmj@lagoon.ocn.ne.jp

地域の魅力を磨き上げて地域の誇りに!

七尾には、加賀百万石の礎を築いた前田利家が人生の大切な1ページを刻んだ場所があります。それは、利家が信長の家臣として出世し、はじめて自分の力で城を築いた場所、小丸山城のあった小丸山公園です。私たちは、見過ごしがちな公園の魅力をもっと発掘し、磨き上げ、いつか七尾の人が旅の人に会ったときに「小丸山公園行ってみたい!」と胸を張って紹介できるような場所にしていきたいと思っています。

公園への愛を育てる!

私たちはまず、地域の人に公園に愛着を持ってもらうことから始めています。公園の魅力や公園にかかわる人の想いを伝える『城址 小丸山新聞』を年4回発行しながら、楽しんで公園の魅力に触れてもらえるようなイベントの開催など中心に活動しています。まずは公園に愛情を持ってもらい、みんなの力で公園の魅力を育てていきたいと考えています。



落ち葉掃除 + 落ち葉でヤキイモ
小丸山びかびか大作戦!!

公園からまちを元気に!

私たちは最終的には公園からまちを元気にしていきたいと考えています。将来的には、公園や利家とまちを上手につないで、経済効果を生んでいきたい。まちなかにある資源のPRや商品開発も必要です。七尾や県内各地にある利家ゆかりの地との連携もしていきたい。徐々にそういった活動も始めています。



その場所の『物語』を感じられる看板をいくつか設置しました!
『城址 小丸山新聞』第4号より抜粋

一緒にチャレンジしてみませんか?!

実は、私たちは活動を始めてまだ1年しか経っていません。隊長は26歳で、幅広い年齢層のメンバーがいます。地元の人たちの愛着を大切にしながら、ベンチャービジネスを立ち上げるような気持ちで公園の魅力UPや、公園とまちをつなぐことにチャレンジしています。このチャレンジには、いろんな人たちのいろんな力が必要です。ぜひ一緒にチャレンジしてみたいという方、ご連絡お待ちしております!

NPO法人 エコ未来塾

〒923-1247 石川県能美市出口町へ64番地 大一建設株式会社内
TEL 0761-51-2080 / FAX 0761-51-2099
URL <http://www.miraijuku.org>
E-mail info@miraijuku.org

活動内容

未来の子とに資源ときれいな地球を残すため、地域の人々に環境の保全を訴え、また継続的な啓発活動を行うことにより、資源循環型社会の実現とより良いまちづくりを目指しています。

現在、休耕田を利活用した菜の花栽培や、菜種からの搾油事業を主に行い、廃食油回収やバイオディーゼル燃料の精製など、循環型社会形成に向け、専心努力致しております。

この活動に子ども達にも参加してもらい、地域と環境について学ぶ機会にもなっています。さらに、現代の大量生産・大量消費の時代に生まれた子ども達に、社会の仕組みを見直す活動の輪を広げていきたいと考えます。

将来的には、廃食油から精製したバイオディーゼル燃料が、学校給食の運搬車や農耕車などに軽油代替燃料として活用されることを願っております。



親子でやってみよう!地球にやさしい体験
(菜の花フェスタでのリサイクル工作教室にて)

ただ我々の活動だけで実現することは困難であるので、地域の人たちにご理解を頂き、少しずつ輪を広め、一步一步進んで行きたいと考えております。そして、知恵と笑顔があふれる地域になるよう尽力して参ります。

活動実績

- 休耕田での菜の花栽培
- 菜の花と灯りのコラボレーション協力
- 菜の花刈取り体験会
- 菜種の選別・搾油体験会
- 菜の花フェスティバル実施
- リサイクル体験実施
- 辰口地区小学校全児童への菜種配布
- 同菜の花エコ通信発行
- 同紙上での菜の花育成・収穫指導
- 同小学校での菜種回収
- 能美学びフェスタでの啓発活動



菜の花から教わったのは、
心と知恵を豊かにすること



菜種油を使った灯りで、幻想的な夜を楽しみます(菜の花と灯りのコラボレーションにて)

【お問い合わせ先】NPO法人エコ未来塾 事務局
E-mail info@miraijuku.org
TEL 090-3152-6452

NPO法人 清水育英会

〒929-1215 かほく市高松△19番地1
TEL&FAX 076-281-0817
URL http://www.geocities.jp/shimizu_ikueikai/index.html
E-mail simizu_ikueikai@ybb.ne.jp

設立の経緯と目的

清水育英会は、昭和34年故清水源太郎氏が私財を投じ、任意団体として設立以来、旧高松町の経済的事情による進学困難な生徒を対象とした奨学資金給付、また最近では「本物から学ぶ体験活動」として高松中学校での音楽鑑賞や講演会を行うなどの活動を続けてまいりました。

このたび創設者の遺志を継ぎ、主として児童生徒への教育環境整備に関する事業を行い社会に有用な人材を育成するため、より開かれ、社会的に認知される団体として活動できるよう平成19年1月12日NPO法人としての活動をスタートしました。

事業について

奨学金は設立以来、市制移行に伴う新しい奨学金制度ができるまでの14年間で80余名に給付されました。また昭和38年創設の「清水賞」は科学賞や善行賞として児童生徒の表彰者は400余名を数えています。

最近の活動ですが、学校、PTAとの共催により、

- 平成16年度 「焔太鼓」鑑賞会
- 平成17年度 「津軽三味線」鑑賞会
- 平成18年度 「村田兆治」講演会

をいずれも、かほく市立高松中学校で企画・開催しています。

講演後の感想から多くの生徒に感動と生きる指針を与え、すばらしい成果を得たと学校よりお聞きしております。

今後の活動

当面の事業は、学術・文化・芸術・スポーツ等振興育成のため講演会等と清水賞の2本立てで行いますが、今後は、私達の趣旨にご賛同頂ける会員を広く募ってご参加頂



感動の講演に感謝の花束贈呈

くとともに、学校予算では企画が難しい行事など学校のニーズに合わせ、また私達の提案により資金面での支援をしてまいります。

会員募集中です

子供たちの未来のために、いっしょに考え行動しませんか。皆様のご入会をお待ちします。また本会の趣旨にご賛同頂き、特別な援助をいただける特別会員の方も募集しております。詳しくは、上記HPを「清水育英会」で検索してご覧ください。

大呑地区グリーンツーリズム推進協議会

〒926-0382 七尾市花園町力部7番地
TEL 0767-59-1111 / FAX 0767-59-1167
URL <http://www.oonomi.net>
E-mail minamipp@nsknet.or.jp

IT社会になり、何事においても迅速が求められ、社会が豊かになった事とは裏腹に、犯罪の低年齢化、残忍な犯罪が増えているのが現状です。

そんな中、田舎でゆっくり時を過ごし、田舎の歴史・食・文化・自然と触れ合うことで、心身を休め、癒しを求める傾向が、都会の人々を中心に年々強くなってきています。

大呑地域では、海の恵み、山の恵みはもちろん、天然の鮎・鮭が産卵のため遡上する熊淵川の清流を宝に、自然豊富なおとこであります。



近くの里山でたけのこ掘り



熊淵川で鮎の塩焼き

また、富山湾の向こうに立山連峰がそびえ立っています。3000m級の山々を海の向こうに見ることのできるのは、世界に3箇所しかなく、その一箇所が大呑地域であります。

ふるさとを見直し、地域活性

化を含め、人々に安らぎを感じてもらえればと思い、4年前から私たち大呑地域では、1年を通し、たけのこ掘り・鮎釣り・あおりイカ釣り・野山散策など様々な体験を展開しています。

グリーンツーリズムの体験を通し、親子はもちろん、知恵をもつ地域の若年層との交流や、自然とのふれあいによる心の癒しや、未来を担う子供たちの健全育成や、人を敬い命を慈しむという心を育むものと信じています。



川原で子どもたちと流しそめん

大呑グリーンツーリズム推進協議会では、大呑地域の自然のフィールドの中で、季節ごとのいろいろな体験を通して、次のことを目的に活動しています。

- *自然体験を通して、子供たちの心身の健全育成を図る。
- *体験を通して、地元の自然や文化、伝統を学ぶ。
- *交流人口を増やし、地域を元気にする。

NPO法人 志ネット・石川

地域の高齢者をサポートする地域づくり

認知症になってもまちなかで普通の暮らしを

認知症の高齢者が在宅で暮らしていくには、身近な家族や地域住民の理解と協力が欠かせません。志ネット・石川では、ミニデイサービスなど地域に密着した介護事業をはじめ、認知症に関する講演会や勉強会の開催などにも取り組み、認知症の方の在宅福祉の充実を目指しています。

活動の柱となっているのは、白山市内で運営している通所介護施設「菜の花のおうち」でのミニデイサービスです。平日の朝から午後3時まで、介護資格を持つ専門職やボランティアが認知症のお年寄りをケアしており、定員は1日7名。主に白山市内在住の認知症高齢者の方がご利用です。「ケアといっても、普通の暮らしをどう実現するかに気を配っています。針仕事、花の手入れ、ご飯の用意など、もともと身につけていた暮らしのしつらえや、読む、書く、歌う、映画を楽しむなど、できること、わかることを探して、心が喜ぶような時間を過ごしたいとやっています」と常光利恵理事長。

お年寄りが作った色彩やかなアームバンドを友人・知人に販売したり、知り合いのお寿司屋で手作りコースターを使ってもらったところ、どちらも評判は上々。あるイベントで「このすてきな小物はだれが作ったんですか?」と尋ねられたことがあり、南出洋子施設長が「デイサービスの皆さんで作りました」と答えると、とても驚かれたというエピソードもあるそうです。



白山市の住宅街にある「菜の花おうち」

このほか、志ネット・石川では、認知症に関心を持つ地域住民やボランティアの方々と勉強会や講演会を開催するほか、大学・専門学校で福祉を学ぶ学生の実習の受け入れなども行っており、より多くの人に認知症に対する意識を深めてもらえるよう努めています。

平成16年にNPO法人化

ミニデイサービスを始めたきっかけは、関わった特別養護老人ホームでの認知症の方の暮らしのありように疑問を抱くようになったからでした。

まちなかにある小規模な場所で、本人の意思を尊重したきめ細かな介護サービスを実現しようと「菜の花のおうち」を平成9年に

スタートさせました。施設名は、折れでも踏まれても花咲く生命力にあふれた菜の花にちなんだもので、「老いることは自然なこと。年を重ねることはすごいこと」とのメッセージが込められています。

現在、「菜の花のおうち」は、友人の普通の住宅を借りて、文字通りのアットホームな雰囲気、皆さんに好評です。常光さんと南出さんの二人でけん引してきた活動は、今年でまる10年を数え、会員数は、正会員・活動会員・賛助会員、合わせて79人に。平成



お年寄りの方々と作った小物の数々

16年3月には、「NPO法人志ネット・石川」となり、介護保険の指定施設としてより多くの方に利用していただけるようになってい

心が通い合う「たまり場」に

今後の課題について、「お年寄りやその家族にとって安心できるサービスを実現するには、経営基盤をしっかりとものにしなければなりません。NPO法人化もその一環ですが、活動に賛同してくれる個人や企業などのサポーターから協力を得るためさまざまな情報発信をする一方、地域の方や認知症のお年寄りとの交流の場や機会をもっと設けていくことも必要です」と常光さんは強調します。

「菜の花のおうち」は、集まったお年寄りやスタッフ、サポーター同士が気軽に雑談を楽しむことのできる場所です。まちなかの一般の住宅を利用する理由もまさにそこにあります。志ネット・石川は、様々な地域で身近なところに「菜の花のおうち」のようなミニデイサービスが広がることを願い、また、この小さな「たまり場」が福祉職のよき働き場所になるようにと活動しています。



講師を招いて定期的な講演会

〒924-0072
白山市千代野西2丁目5番地3
NPO法人 志ネット・石川
TEL&FAX 076-275-7354
E-mail kokorozashi-net@sage.ocn.ne.jp

「いしかわのNPO」 掲載情報募集のお知らせ

県内のNPO・ボランティア団体の活動内容等の情報を発信するコーナー「いしかわのNPO」を設けています。貴会の活動の情報を発信する場として、ぜひご利用いただければと思います。

掲載参考項目

- ・団体名、団体住所、電話番号、FAX番号、E-mail、URL
- ・設立の経緯、活動の内容(必ずご記入ください)、会費、利用料金、困っていること、アピールしたいこと等
- 600~800字程度にまとめてください。
- 掲載料/無料

寄稿方法 / 郵送、FAX、メールいずれも可

その他 / 活動風景などのお写真も併せて送付いただければと思います(電子データ可)。
送り先 / 石川県NPO活動支援センター
〒920-0962 金沢市広坂2-1-1 石川県広坂庁舎2号館2階
TEL 076-223-9558 FAX 076-223-9559
E-mail npo@pref.ishikawa.lg.jp 担当 / 河原

これで納得! NPOの「人と組織」

川柳で詠む
-その2-

NPO(Non=非 Profit=営利 Organization=組織)は、組織であることが前提です。「市民活動家」「アドバイザー」「コーディネーター」等の肩書きで個人として活動している場合をNPP(Non=非 Profit=営利 Person=人)としっかり区別してからNPOを説明する場合があります。NPOにかかわる人たちは、自発的にみずからが主体となって活動しています。したがって、「自分のため」という自己実現力は、企業や行政などの組織以上に、NPOの使命を達成するための大切な要素となっています。それゆえ、現場では「組織と個人」の公私混同が、トラブルの大きな要因となるケースが多く、「人間関係におけるリスク軽減」は、組織運営に欠かせないものであるといえます。

今回は、NPO運営で最も多い「人間関係トラブル」を上手に回避するポイントを、ご自身の性格チェック(□部分)も行いながらご紹介します。

i-ねっと事務局長・青海康男

組織の中では熱心な方だと思いが、周りの人があまり活動しないのが気になる

「やる気」があっても、その気持ちを組織の人たちと共有できていないのが原因です。傍観者にしてしまっているのは、それが気になる「あなた自身」に原因があるかも知れません。その人たちが参加しない原因があなた自身にあるかどうかも含めて考え、あなたの「やる気」を共有するための努力をしましょう。

自分の考えと違うと「分かってないなあ」と、思ってしまう

NPOは、志をひとつにしているといっても他人同士の集まりです。趣旨に賛同するにしても、個々それぞれに、それなりの理由があるので、考え方も「違って当然」です。問題はそこから先です。お互いの考え方の違いを理解し、それでも一緒にできることは何か、模索する努力をしましょう。

知らない人がいると、ついつい全部を伝えたいくなる

NPOは、専門性の高い人や一時的にかかわりを持つ人(例:イベントボランティア)など様々な人によって活動が成り立っています。組織全体として専門性を上げることより、専門性の高い人が一方的にリードするケースは、活動に参加する人が増えない理由にもなります。活動内容にもよりますが、組織の専門性を誰にどこまで求めるかよく考え、それぞれの人に合った活動ができるように心がけましょう。

人の話を聞く前に、つい、自分の話をしてしまう

NPOには、会議に限らず、一方的に自分のことを語ってしまう想いの熱い人が多いといわれます。他者とのコミュニケーションを取る手法に「天気の話」があるように、双方向性があるからこそ成立するのが「会話」です。共通の話題が成立するのか、相手が理解してくれるか、会話の土壌を整えてから、相手にあった内容の「会話」を心がけましょう。

あの人には神様みたいによくやるよ

この組織 わたし以外は傍観者

見られぬ ついつい手を出し口を出す

やれるのよ わたしこんなに専門家

ワンマンで 思い込んだら閉じる耳

一笑に ふざけてしまう 偉そうに...

自分のする方が早いので なかなか他人に任せきれない

「性分」のようなものです。組織に傍観者が多い場合、このような「性分」の人が必ず存在します。なかなか「性分」を変えるのは難しいですが、それはいつまでたっても、後継者が育ちません。思い切って「他の人に任す」ことも組織マネジメントのひとつです。

一聞くと 百の回答より混乱

いつまでも ひとり気を吐く 専門家

いつも自分の話して帰る

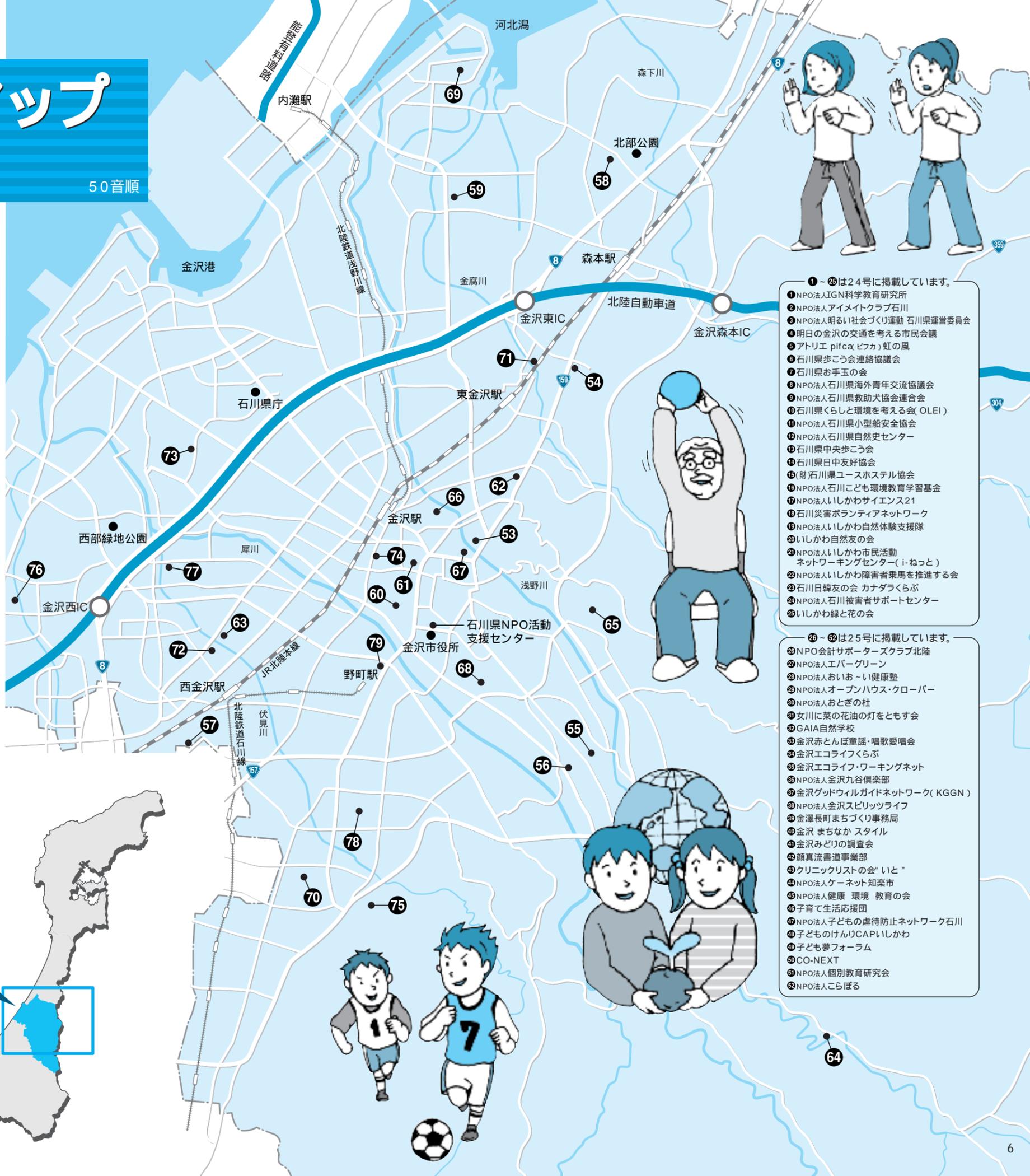
聞くだけで 終わってしまったこの会議

いしかわのNPOマップ (金沢エリア)

50音順

- 53 NPO法人 サポート24(金沢市東山)
[介護、生活支援全般をサポートします]
TEL 076-251-0150
- 54 NPO法人JWP(金沢市神谷内町)
[地域福祉に貢献できる人材育成を目指す]
- 55 JPS金沢(金沢市小立野)
[環境にやさしい、切り収集の趣味「郵趣」]
TEL 076-223-3818
- 56 ジェンダーイコシティ金沢きらめきs
(金沢市三口新町)
[人と人が共にきらめく男女共同参画社会を目指して]
TEL 076-222-0535
- 57 自分をみつけるママの会Snigel m.(金沢市押野)
[自分らしく生きたいお母さんを応援]
E-mail snigelm@infoseek.jp
- 58 NPO法人市民環境プロジェクト(金沢市湖陽)
[自然エネルギーの研究と活用普及]
TEL 076-258-2464
E-mail yadp@aurora.ocn.ne.jp
- 59 NPO法人ジャパンハーブソサエティ 金沢支部
(金沢市木越町)
[ハーブの普及、啓蒙支援]
TEL 076-238-2764
URL http://www5.ocn.ne.jp/nomugi/jhs-kanazawa/
- 60 自遊創生団(金沢市長町)
[冒険遊び場の常設化を目指しています]
TEL 076-232-6673
- 61 NPO法人新城(金沢市武蔵町)
[ギャラリー「おんこぼんこ」を通しての地域交流]
- 62 スペシャルオリンピックス日本・石川(金沢市小金町)
[知的障害者とスポーツを楽しもう!]
TEL 076-251-7012
E-mail son-i@bb.cocone.jp
- 63 NPO法人世界の砂漠を緑で包む会(金沢市東力)
[砂漠の緑化、環境教育、国際交流]
TEL 076-292-0038
- 64 竹文化振興協会石川県事務所(金沢市鱈六町)
[竹の有効活用について指導]
TEL 090-2098-8642
- 65 地球の友・金沢(金沢市鈴見台)
[道路環境調査の実施と政策提言]
TEL 076-258-2464
URL http://homepage2.nifty.com/foek/
- 66 つちのふえ(オカリーナ)交流会(金沢市瓢箪町)
[やさしいつちの音を楽しもう!]
TEL 090-4686-4124
- 67 NALC石川・ボランティア合歡の会(金沢市尾張町)
[自立・奉仕・助け合いが理念のボランティア団体]
TEL 076-232-5868

- 68 日常生活支援 サポートハウス(金沢市本多町)
[様々な子ども達の生活支援活動]
TEL 076-224-7010(山本)
- 69 NPO法人日本静脈産業研究センター(金沢市東蚊爪町)
[社会の循環システムを研究する団体]
- 70 (財)日本ユニセフ協会 石川友の会(金沢市三馬)
[お手伝いして下さる方、連絡お待ちしております]
TEL 076-243-0030
- 71 NPO法人熱帯スポーツ・健康科学研究所
(金沢市神谷内町)
[高齢者や学童の体づくり相談など]
- 72 NPO法人ネット婚しえるじゆ(金沢市保古)
[結婚を考える独身男女をサポート]
URL http://www.net-concierge.org/
- 73 NPO法人バリアフリー総合研究所(金沢市松村)
[安心・安全なまちと住まいを作るための相談所]
TEL 076-268-9032
URL http://www5.ocn.ne.jp/bfsouken
- 74 NPO法人ぴあサポート(金沢市芳育)
[視覚障害者の相談支援、パソコン支援]
TEL 076-231-6615
- 75 BCSG石川(金沢市窪)
[「いのちもからだもあなた自身が主人公」で医療を考える]
TEL 076-242-5902
URL http://bcsg.sakura.ne.jp
- 76 ピンコのハッスル!発する平和の会[PPPA]
(金沢市みどり)
[広く世界に目を開き、平和の発進]
E-mail kiyokoya@cyber.ocn.ne.jp
- 77 NPO法人フェルヴォローザ白山スポーツクラブ
(金沢市高島)
[石川でのサッカーを中心としたプロスポーツ文化の創生]
TEL 076-291-1415
- 78 ボランティアグループ たんぽぽ(金沢市寺地)
[「愛のひと針ぞきん縫い」で福祉支援]
TEL 076-241-5918
E-mail s-yasuta@spacelan.ne.jp
- 79 ワン&オンリー石川いのちの会(金沢市野町)
[1円でお腹の赤ちゃんを応援します]
TEL 076-242-4576



- ①-②は24号に掲載しています。
- ① NPO法人IGN科学教育研究所
- ② NPO法人アイメイトクラブ石川
- ③ NPO法人明るい社会づくり運動 石川県運営委員会
- ④ 明日の金沢の交通を考える市民会議
- ⑤ アトリエ pifca(ピファ)虹の風
- ⑥ 石川県歩こう会連絡協議会
- ⑦ 石川県お手玉の会
- ⑧ NPO法人石川県海外青年交流協議会
- ⑨ NPO法人石川県救助犬協会連合会
- ⑩ 石川県くらしと環境を考える会(OLEI)
- ⑪ NPO法人石川県小型船安全協会
- ⑫ NPO法人石川県自然史センター
- ⑬ 石川県中央歩こう会
- ⑭ 石川県日中友好協会
- ⑮ (財)石川県ユースホステル協会
- ⑯ NPO法人石川こども環境教育学習基金
- ⑰ NPO法人いしかわサイエンス21
- ⑱ 石川災害ボランティアネットワーク
- ⑲ NPO法人いしかわ自然体験支援隊
- ⑳ いしかわ自然友の会
- ㉑ NPO法人いしかわ市民活動ネットワークセンター(i-ねっと)
- ㉒ NPO法人いしかわ障害者乗馬を推進する会
- ㉓ 石川日韓友の会 カナダくらぶ
- ㉔ NPO法人石川被害者サポートセンター
- ㉕ いしかわ緑と花の会

- ㉖-㉗は25号に掲載しています。
- ㉖ NPO会計サポーターズクラブ北陸
- ㉗ NPO法人エバーグリーン
- ㉘ NPO法人おいおい健康塾
- ㉙ NPO法人オープンハウス・クローバー
- ㉚ NPO法人おとぎの杜
- ㉛ 女川に菜の花油の灯をともし会
- ㉜ GAIA自然学校
- ㉝ 金沢赤とんぼ童謡・唱歌愛唱会
- ㉞ 金沢エコライフくらぶ
- ㉟ 金沢エコライフ・ワーキングネット
- ㊱ NPO法人金沢九谷倶楽部
- ㊲ 金沢グッドウィルガイドネットワーク(KGGN)
- ㊳ NPO法人金沢スピリッツライフ
- ㊴ 金澤長町まちづくり事務局
- ㊵ 金沢 まちなか スタイル
- ㊶ 金沢みどりの調査会
- ㊷ 顔真流書道事業部
- ㊸ クリニクリストの会「いと」
- ㊹ NPO法人ケーネット知楽市
- ㊺ NPO法人健康 環境 教育の会
- ㊻ 子育て生活応援団
- ㊼ NPO法人子どもの虐待防止ネットワーク石川
- ㊽ 子どものけんりCAPIいしかわ
- ㊾ 子ども夢フォーラム
- ㊿ CO-NEXT
- ① NPO法人個別教育研究会
- ② NPO法人こらぼる



金沢地区は、24号、25号、26号の3回に分けて掲載しています(50音順)。今回紹介した団体以外にも、金沢地区にはたくさんのNPOが活躍しています。

指定管理者制度について考えてみよう!

～NPOと指定管理者制度の関係は?～

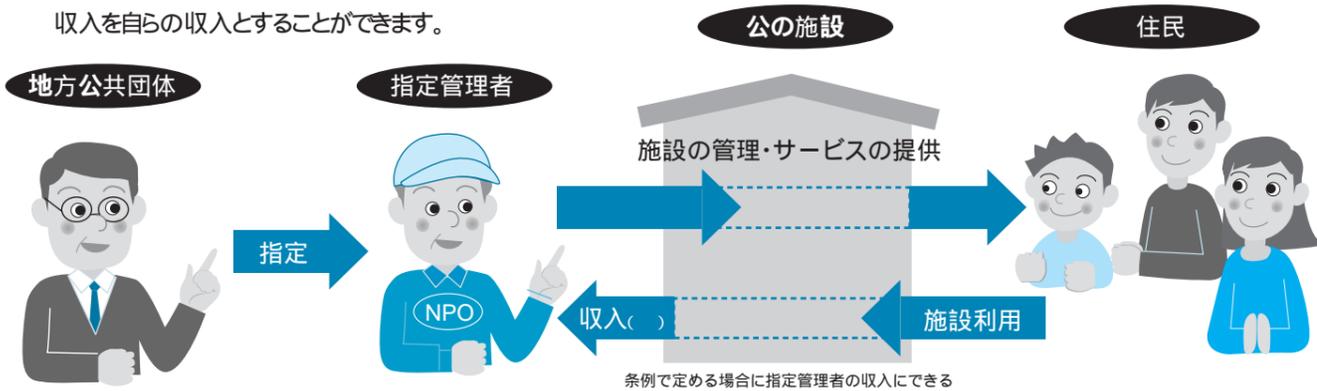
< 指定管理者制度とは... >

地方公共団体は、「住民の福祉の増進を図ることを基本として、地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を広く担う」とされており、公の施設は、設置主体である地方公共団体がその管理を直接行うことが基本です。指定管理者制度は、平成15年の地方自治法改正により、公の施設の管理委託先について、公的団体(例:農協、商工会、自治会など)に限定していたこれまでの管理委託制度にかわり新しく創設された制度です。多様化する住民ニーズにより効果的、効率的に対応するための制度となっており、株式会社等の民間団体が、議会の議決を得て指定管理者として指定されれば、公の施設の管理を行うことができます。

公の施設:地方公共団体が条例で設置を定めた住民の福祉を増進する目的をもってその利用に供するための施設(例:体育館、公園、県営住宅など)のことです。

< 指定管理者制度によって... >

株式会社などの営利法人、NPO法人、法人格を有しない民間団体も公の施設の管理者となれます。施設全体の維持・管理や条例の規定により使用許可ができる(例:研修センター会議室利用承認)など、これまで自治体が行ってきた業務まで指定管理者が行うことになります。条例で定める場合、指定管理者が「公の施設」からの収入を自らの収入とすることができます。



< 地方自治法 抜粋 >

第一条の二 地方公共団体は、住民の福祉の増進を図ることを基本として、地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を広く担うものとする。

(公の施設)

第二百四十四条 普通地方公共団体は、住民の福祉を増進する目的をもってその利用に供するための施設(これを公の施設という。)を設けるものとする。

2~3 (略)

(公の施設の設置、管理及び廃止)

第二百四十四条の二 普通地方公共団体は、法律又はこれに基づく政令に特別の定めがあるものを除くほか、公の施設の設置及びそ

< 制度の利点 >

民間事業者の有するノウハウを活用することにより、管理に関する経費を縮減することが可能になり、その結果、施設利用料の低料金が図られたり、また、より多くの利用者を確保する民間事業者の発想をとり入れることで、利用者に対するサービス向上が期待できます。

< 石川県の現状 >

平成18年度、石川県においても、公園や県営住宅など118の施設で指定管理者が公の施設の管理を行っています。主なものは、下記のとおりです。

平成18年4月1日現在

青少年総合研修センター(宿泊・会議室部門)
輪島エコロジーキャンプ場 / 森林公園(三国山キャンプ場)
県民の森 / 健康の森 / 湖南運動公園 / 滝港マリーナ
中央公園 / 本多の森公園 / 犀川緑地 / 玉川公園
健民海浜公園 / 奥卯辰山健民公園 / 粟津公園
北部公園 / 県営住宅

NPOも公の施設の指定管理者として注目され、実際に、石川県内でもNPOが指定管理者となって公の施設を管理運営している事例があります。今回は、そのうちのいくつかをご紹介します。

指定管理者	NPO法人はづちを	NPO法人クラブレッツ
施設名	加賀市はづちを楽堂	かほく市宇ノ気体育館 かほく市宇ノ気新化館
施設設置主体	加賀市	かほく市
施設設置年度	平成14年度	平成18年度
施設設置条例	加賀市はづちを楽堂条例	かほく市体育施設条例
施設設置の目的	高齢者へのいきがい活動への支援及び地域住民の世代間交流を図り、もって地域福祉の向上及び賑わいづくりの創出	市民の体力向上及びスポーツの振興 
施設設置の経緯	加賀市は、中心市街地の空洞化、賑わい喪失を危惧し、旅館跡地に「いやしのゾーン」と「もてなしのゾーン」を核とする施設整備の構想を掲げ、地域の有志で構成された「山代温泉活性化検討委員会」にて方針検討を行い、平成14年6月、高齢者いきがい交流プラザ「はづちを楽堂」がオープン。	中学校体育館として設置 施設の有効活用を図るべく当初から民間NPOが施設運営業務を受託
指定管理者制度導入年度	平成18年度	平成18年度
管理の内容	利用許可に関する業務 施設及び設備の維持管理に関する業務 施設運営に関する業務(市長権限に関するものを除く)	利用許可に関する業務 施設及び設備の維持管理に関する業務 施設運営に関する業務(市長権限に関するものを除く)
行政からの管理経費	7,000千円	4,696千円
上記の内訳	人件費、光熱水費、警備に係る経費など	人件費、電話料、清掃委託経費など
施設における自主事業の内容	飲食事業(はづちを茶店) 物販事業(丹塗屋) 交流イベント事業(各種イベント開催) 	施設有効活用のためのプログラム実施 スタジオプログラム 室内練習場プログラム アリーナプログラム サロニールームでのランチパーティなど 
民間運営の利点	単なる施設管理にとどまらず、地域の求めるものなどを事業化し、施設を拠点とした様々な活動が行える。	様々なプログラムを住民ニーズに合わせて実施し、多くの住民が施設を有効活用している。
制度導入前の運営管理形態	当団体が所属する「山代温泉まちづくり推進協議会」と加賀市が管理委託契約	平成18年度新設のため実績なし
指定管理者の今後の目標	市と対等な協働関係を構築できる自立した団体運営 団体としての明確な目標設定 	各施設の有閑時間の有効活用 施設管理・メンテナンスノウハウの習得。 提供プログラムの充実 施設利用者の増大 収益事業の確立による財源基盤の確立。 同一敷地内に設置されている中学校との連携促進

民間運営の利点として、地域のニーズを的確に捉え、施設の目的の範囲内において、機動的に自主事業を展開できている点が挙げられています。「公の施設が市民自らの運営により活性化し、その地域が元気になる」。指定管理者としてのNPOに期待されます。

INFORMATION

県からのお知らせ

平成19年度当初予算におけるNPO活動促進関連事業

- (1)災害ボランティアコーディネーター養成事業
被災地での災害ボランティア活動が円滑に行われるよう、被災地のニーズに応じたボランティアの受け入れや派遣などを調整する「災害ボランティアコーディネーター」を養成します。
- (2)災害ボランティア地域活動促進事業費
災害発生時に被災地における災害ボランティアによる救援活動が効率的に展開できるよう、県内市町担当職員及びボランティア等を対象に研修会を開催し、市町災害ボランティア担当課間のネットワークづくりにつなげます。
- (3)NPO活動連携・協働支援事業費補助金
NPO活動の活性化を図るため、下記の助成を行い、行政(県・市町)とNPOとの協働促進、地域課題の解決に役立つビジネスの創出につなげます。
行政が解決すべき課題の解決に向けた事業企画案をNPOから公募助成
高齢者・女性を中心となって立ち上げる事業型NPOの事業初期経費(備品費)の1/2を公募助成
- (4)NPO活動等社会貢献活動参加促進事業
社会参加を希望する県民を対象にNPOやボランティア活動、就業、起業に向けた情報収集や学習を行う交流サロンを開催するとともに、自分に適した社会参加活動を見いだすNPO等とのマッチング事業を実施することで地域活動への積極的な参加を促進します。
- (5)その他の事業
NPO活動支援センターの運営やいしかわNPOニュースの発行(年4回)についても継続することとしています。

お申込みお問い合わせ先
石川県県民文化局県民交流課
〒920-8580 金沢市鞍月1丁目1番地
TEL 076-225-1365 FAX 076-225-1363
E-mail npo@pref.ishikawa.lg.jp

特定非営利活動法人の事業報告書提出について

特定非営利活動法人は、特定非営利活動促進法(以下「法」という。)第29条第1項の規定により、事業報告書など法定の書類を事業年度の初めの3ヶ月以内に提出していただくことになっております。
【参考】法定の提出書類
事業報告書等提出書、事業報告書、財産目録、貸借対照表、収支計算書、前事業年度の役員名簿、前事業年度の社員のうち10人以上の者の名簿
定款(記載事項に変更があった場合に提出)
定款変更認證書の写し(定款変更認証を受けた場合に提出)
登記に関する書類の写し(定款変更にもなると登記の変更があった場合に提出)
提出部数は のみ1通、その他の書類については各2通です。

お申込みお問い合わせ先
石川県NPO活動支援センター
〒920-0962 金沢市広坂2-1-1 石川県広坂庁舎2号館2階
TEL 076-223-9558 FAX 076-223-9559
URL http://www.ishikawa-npo.jp/index2.html
E-mail npo@pref.ishikawa.lg.jp

NPO・ボランティア情報

2007いしかわミュージックアカデミー音楽ボランティア募集

目的 / 国内外から著名な講師を迎え、プロを目指す若き音楽家の才能を磨き、世界へ一歩踏み出す舞台として開催します。

実施期間 / 平成19年8月17日(金)~8月26日(日)
会場 / 石川県立音楽堂、石川県青少年総合研修センターほか
募集期限 / 平成19年7月13日(金)
募集対象 / クラシック音楽や音楽ボランティアに興味・関心のある高校生以上の方
内容 / 講師のアシスタント及びコンサート・発表会運営のお手伝い
その他 / ・参加可能な日のみの参加も可能
・申込者を対象とした事前説明会を7月頃に開催予定。
その他、詳細については下記までお問い合わせください。

お申込みお問い合わせ先
いしかわミュージックアカデミー実行委員会事務局(石川県県民文化局文化振興課内)
〒920-8580 金沢市鞍月1丁目1番地
TEL 076-225-1372 FAX 076-225-1374
URL http://www.pref.ishikawa.jp/music

ボランティア情報「ユークンかわらばん」のご案内

石川県社会福祉協議会ボランティアセンターでは、ボランティア募集やボランティア・福祉関連イベントの情報を掲載した「ユークンかわらばん」を毎月発行しています。掲載する情報を募集しています。ボランティアを募集をしたい方、イベントの案内をしたい方は、ぜひご連絡ください。
発行日 / 毎月15日
配布先 / ボランティア希望者、学校、企業、福祉施設など
ホームページからの閲覧も可能です。
掲載費用 / 無料
募集内容 / ボランティア募集、ボランティア・福祉関連イベント案内、助成金案内など
上記に該当するものであれば、NPO法人、ボランティアグループなどの団体は問いません。(ただし、政治、宗教、営利目的のものは除きます。)
掲載方法 / 下記までご連絡ください。様式をお送りします。ホームページからの入力も可能です。(締切毎月10日)
その他、詳細については下記までお問い合わせください。

お申込みお問い合わせ先
石川県社会福祉協議会ボランティアセンター
〒920-8557 金沢市本多町3-1-10
TEL 076-234-1616 FAX 076-222-8900
E-mail ivc@isk-shakyo.or.jp
URL http://isk-shakyo.or.jp/volunteer/

社会活動総合情報サイト「石川ボランティアネット」情報募集のご案内

県内でNPO・市民活動・ボランティア活動に取り組む皆さんをインターネットによる情報発信で応援!
環境・福祉・まちづくり・子育て・青少年健全育成、文化振興、国際交流等々、石川を元気にする活動を広くPRし、県内を活性化させることを目的としてオープンします!
WEBサイトは6月1日オープン!
ただいま掲載団体・情報を募集しています。WEBサイトを利用して団体の活動・ボランティア・イベント募集に役立ててください。情報掲載は無料です。掲載を希望される方は、入力用紙をお送りしますので下記までご連絡ください。
石川ボランティアネット内容
<情報発信>
・ボランティア・メンバー募集
・イベント・事業参加者募集
・募金・収集物募集
・団体活動情報
<読み物記事>
・活動者・ボランティアインタビュー

・石川の仕事人インタビュー
・連載・特集記事ほか
サイト運営のボランティアスタッフも募集中。
その他、詳細については下記までお問い合わせください。
お申込みお問い合わせ先
財団法人 石川県ユースホステル協会(担当:南)
〒920-0962 金沢市広坂2-1-1 県立生涯学習センター3F
TEL 076-261-2882 FAX 076-261-3505
E-mail info@volnet.or.jp
URL http://www.volnet.or.jp

助成金ニュース

平成19年度ニッセイ財団 高齢社会助成

助成の主旨 / 高齢者問題はますます複雑・多様化し、高齢者の健康・生きがいづくりをはじめ、高齢者が自ら参加して生きいきと暮らせる共生社会づくりや、要介護の高齢者を地域で支える共生コミュニティづくりが重要な課題となってきています。これらの課題に応えるために、「共に生きる地域コミュニティづくり」を基本テーマに、次の2つのプログラムを展開しております。

- 募集の概要 /
I 実践的研究助成
1 助成対象 /
(1)認知症高齢者に関する予防からケアまでを探索する実践的研究
(2)高齢社会における地域福祉、まちづくりを探索する実践的研究
(3)高齢者の自立・ケア・自己実現・社会参加を探索する実践的研究
2 助成期間 / 平成19年10月から最長2年
3 助成金額 / 2年、1件当たり200~250万円程度
4 募集期間 / 平成19年3月13日(火)から6月14日(木)
5 応募資格 /
(1)代表研究者は、当該研究組織を代表し、その中心となって研究の取りまとめを行い、研究助成金の管理および報告事務等を含めて研究計画の推進に責任をもちうる人。
(2)代表研究者の国籍・所属や資格は原則として問いません。ただし、日本の在住者であり日本語で申請・報告ができること。
II 先駆的事業助成
1 助成対象 /
(1)認知症高齢者に関する予防からケアまでの総合的な先駆的事業
(2)高齢社会における地域福祉、まちづくりを目指す地域を基盤とした先駆的事業
(3)高齢者の自立・ケア・自己実現・社会参加を推進する地域社会システムづくりの先駆的事業
2 助成期間 / 平成19年10月から最長2年半
3 助成金額 / 2年半、1団体当たり700万円以内
4 募集期間 / 平成19年3月13日(火)から5月31日(木)
5 応募資格 / 既に優れた活動実績をもつ、社会福祉法人、財団法人、社団法人、NPO法人を原則とし、その代表者および事業責任者が信頼するに足るものであること。
応募方法 / 財団所定の申請書(コピー使用可)に必要事項を記入し、作成した申請書の原本および両面コピー(1ページの裏が2ページとなるようなコピー)2部を添付して(合計3部)下記へご送付ください。その他、詳細については下記までお問い合わせください。
お申込みお問い合わせ先
ニッセイ財団 高齢社会助成事務局
〒541-0042 大阪市中央区今橋3丁目1番7号
日生今橋ビル4階
TEL 06-6204-4013 FAX 06-6204-0120
URL http://www.nihonseimei-zaidan.or.jp/



今年の3月は、本当に3月かと思うくらい暖かい日もあれば、雪が舞うような日もあり、気候に振り回された気がします。みなさまは、体調いかがでしたでしょうか。私がこの機関誌を担当して3年が経過しました。「NPOの想いをどのように伝えていくか」を委員のみなさまと共に考えた3年間でした。来年度も、NPOにとって、また、県民のみなさまにとって、意味のある誌面づくりを目指したいと思います。

平成19年度「川に学ぶ」活動助成
河川・海岸等の水辺で行う自然体験や環境教育等のさまざまな「川に学ぶ」活動に対し、助成を行います。
助成対象活動 /
(1)河川・海岸等の水辺や、水辺に関わる地域をフィールドとして行う自然体験や環境教育等の活動
(2)河川・海岸等でのセミナーやスクール、情報提供、河川を活かしたまちづくりに資する検討・啓発等の諸活動
助成金額 / 1活動あたり10万円を限度(1活動 / 1団体)
応募条件 / 市民団体、学校等の非営利団体による公益的な活動を対象
助成件数 / 40件程度
応募締切 / 平成19年4月20日(金)必着
応募方法 / 所定の応募様式にて、下記まで郵送してください。その他、詳細については下記までお問い合わせください。

お申込みお問い合わせ先
財団法人 リバーフロント整備センター
「川に学ぶ」活動助成事業 事務局(担当:研究第一部)
〒102-0082 東京都千代田区一番町8番地 一番町FSビル
TEL 03-3265-7121 FAX 03-3265-7456
URL http://www.rfc.or.jp/

NPO法人設立資金助成(平成19年度・損保ジャパン記念財団社会福祉助成)

対象者 / 社会福祉の分野でNPO法人の設立を計画している団体(所轄庁受付日が、平成19年4月1日から平成20年3月31日までのもの)
活動内容 / 障害者、高齢者を対象とした、主として在宅福祉に関する活動
助成金額 / 1団体 30万円
資金使途 / 法人設立に関する費用であれば使途は問いません。
申込方法 / 所定の申込書に記載の上、損保ジャパン記念財団事務局へ必ず郵送してください。
申込期間 / 平成19年4月1日(日)~4月30日(月)(当日消印有効)
その他、詳細については下記までお問い合わせください。
お申込みお問い合わせ先
損保ジャパン記念財団 社会福祉助成係
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
損保ジャパン本社ビル37階
TEL 03-3349-9570 FAX 03-5322-5257
URL http://www.sompo-japan.co.jp/foundation/

「あいむ」からのお知らせ

本誌に関するご意見、ご要望をお寄せください。お寄せいただいたご意見等は、制作に活かすほか、本誌に掲載してまいりたいと考えています。

「あいむ」は、石川県NPO活動支援センターの愛称です。

INFORMATION 利用案内

本誌は6月、9月、12月、3月の年4回発行する予定です。情報掲載希望の方は、おのおの前月の15日までに、事業の概要(企画書、チラシ等)を郵送、ファクシミリ等で送付ください。(その際には、「いしかわNPOニュース」掲載希望とお書き添えください。)ファクシミリの場合は、送信後かならず着信の確認をしてください。政治、宗教、営利を目的とする活動は掲載できません。誌面の都合により、お寄せいただいた情報を掲載できない場合があります。また、事前に掲載の可否の連絡はいたしませんので、ご了承ください。掲載料は無料です。
送り先: 石川県NPO活動支援センター
〒920-0962 金沢市広坂2-1-1 石川県広坂庁舎2号館2階
TEL 076-223-9558 FAX 076-223-9559 担当 / 河原



石川県NPO活動支援センター
〒920-0962 金沢市広坂2-1-1
石川県広坂庁舎2号館2階
TEL 076-223-9558 FAX 076-223-9559
URL http://www.ishikawa-npo.jp
E-mail npo@pref.ishikawa.lg.jp

「ヘリテージ・オブ・レイル北陸」は、北陸地域の鉄道を使ったイベントや、廃車や廃線となった鉄道の観光資源化といった地域に根ざした鉄道の有効利用法を提案しています。「ヘリテージ」とは“産業遺産”の意。近代遺産となった鉄道をどう活かそうとするのか。代表を務める岩谷淳平さんにお話をうかがいました。

鉄道遺産の開発と地域活性化に向けて

NPO法人 ヘリテージ・オブ・レイル北陸 理事長 岩谷 淳平さん



地域と地域を結ぶレールのように、人と鉄道を結びつける仲介者に

——どのような経緯でこの活動を始められたのですか。

岩谷 昔から鉄道が好きで、今でも休みの日にはよく列車で旅行に出かけます。以前は、列車の撮影などはあくまで趣味として楽しんでいましたが、鉄道について深く知れば知るほど、また、好きになればなるほど、鉄道に対する社会的関心の薄さが気になりました。当然のことですが、古くなった列車はスクラップされるケースが大半です。スクラップされるものの中には、デザインや技術の分野で貴重な車両も含まれています。「次の時代に進化する過程としての鉄道が、活かされないで機を逸しているのでは」という問いがきっかけになりましたね。



旧山中町が譲受した6010型しらさぎ号

——去年6月に法人化されていますが。

岩谷 HPを立ち上げるなど約5年前からいろいろと行動は起こしていましたが、はじめは特に法人化するつもりはありませんでした。しかし、わたしの住む小松市近郊では、動橋や粟津などの駅周辺が閑散としていて、駅前から商業の中心は遠のいてしまいました。個人個人が便利な世の中になる一方で、地域の鉄道に対する評価や経済的な魅力は、都市部より田舎の方がはるかに薄くなっています。鉄道の機能や魅力を見直してもらうためのアイデアはたくさんありますが、自治体や企業が個人の意見を聞き入れられるほど簡単な問題ではないです。それなら、



鉄道遺産には欠かせない補修作業

地域社会がわたしたちにアイデアを求めて下さることを信じて「鉄道の専門的な知識集団を組織してみよう」と考え、NPO法人を設立したわけです。

——どのようなアイデアが実現しましたか。

岩谷 当初、わたしたちが企画した列車のリバイバル運転が、今では鉄道会社の主催で定期的開催されています。あくまで企画に重点を置いているので、今後はイベントの手伝いに、大学生やボランティアも協力していきたいです。時間をかけて企画を繰り返しても、簡単には採用されず、苦労は多々ありますが、それでも、わたしたちは鉄道を媒介として、人と人、地域と企業をつなぐイベント等の発案をし、団体ならではの経済活性化に貢献していきたいと思っています。県内に点在する鉄道遺産、鉄道歴史資料、そして現有鉄道資産を活用したイベントの開催や地域振興を望む個人や団体、自治体、企業に対して、できる限りの貢献をさせていただきたいと思ひます。



観光資源化で遺産保存と地域活性化

——現在の活動内容は。

岩谷 北陸にしかない、北陸の鉄道を用いたさまざまなイベントを企画しています。たとえば、以前行った列車の撮影会は、多いときで100名以上の参加者が全国各地から集まりました。廃線をしのんだ写真展などの記念行事や、イベントのチラシ、パンフレットの写真の貸し出しも行っています。ほかに、「山中温泉 ゆけむり健康村」敷地内にある「しらさぎ号」などの保存車両の補修

も重要な事業の一つです。補修ボランティアには、幼児から年配者まで、幅広い年齢層の方に参加していただいています。

——教育現場での活用方も考えられているそうですね。

岩谷 身近に走っている鉄道やすでに廃線となった鉄道を社会や理科の授業の教材に使う案です。小中学校の社会見学先や遠足先、鉄道をテーマにディスカッションすれば子ども達の豊かな感性を育む、いい資料になります。

——使われなくなった鉄道資源についてはどのような意見をお持ちですか。

岩谷 鉄道遺産を保存するには当然、維持費がかかるので観光資源として活かしていければと考えています。ただ、常に活用され、メンテナンスされ続けながら情報を発信し、価値観を深めつつ特別なことをしなくても、維持費をペイできる仕組みが必要だと思います。また、加賀市は現在、現存最古といわれる山中馬車軌道の客車を文化財として保存しようと取り組んでいます。19世紀に農耕馬が活躍した馬車軌道が、原型を留めたままで、市内に2両も残っているのは、全国的にも珍しいケースです。これを展示すれば、新たな観光スポットにもなりますし、貸してほしいという自治体や企業があれば、貸出展示をすることで収益を上げ、同時に加賀市のPRにもなります。

——活動していてよかったと思うのはどんな時でしょうか。

岩谷 昨年の7～8月にかけて、JR小松駅のコンコース内で、昭和61年に廃線となった北陸鉄道小松線の写真展「遊泉寺への鉄路、最後の輝き」を開催し、大聖寺の舟巡り乗り場の待合室になっている旧型電車しました。駅長さんに勧められて感想ノートを書いたところ、たくさんの方にメッセージをいただきました。ノートの中には「懐かしかったです。定期的に写真展をしてください。展示ありがとうございました」といった温かな言葉であふれていました。地域の人に鉄道への愛着を持ってもらいたいという願いが通じた気がしました。人と列車、両者が出会い、思い出はよみがえるものです。



——今後の取り組みを教えてください。

岩谷 わたしたちの存在に対して、自治体や鉄道会社に興味を持ってもらい、互いに交流することで新たに鉄道の価値を見出します。そして、協働して鉄道の用途を少しずつ増やし、地域の活性化に利用していきたいですね。2014年度末を予定している北陸新幹線金沢開業によって生じる地域への影響や課題を現在、勉強中です。新たな鉄道を受け入れつつ、近代産業の発展に寄与した鉄道遺産を後世に活かし、経済的な理解を深める先駆者となるのがわたしたちの役目だと思っています。

P R O F I L E



岩谷 淳平さん (いわたに じゅんぺい)

小松市出身。31歳。高校を卒業した後、専門学校で観光ビジネスを学ぶ。家業に携わったから、平成18年に、これまでに培ってきた知識と人脈と技能を生かしてNPO法人を設立する。趣味は鉄道旅行。

【お問い合わせ】

NPO法人 ヘリテージ・オブ・レイル北陸
〒923-0945 石川県小松市末広町109番地
TEL 090-7087-5011
E-mail hrhcommunity@yahoo.co.jp
URL <http://www.geocities.jp/hrhcommunity/>